

意見・回答

番号	発言者	意見等	回答
1	山田委員	農地を宅地に転用し、柔軟な土地利用を図ることにより、税収を上げる議論が必要。税収が上がれば様々なサポートを行うことができ、最終的に市民の安心・安全な暮らしにも繋がる。また、農業だけではなく多様な産業がないと人口減少は止まらない。社会資本が充実している地の利を生かし、総合的な対策を考える必要がある。	市の最上位計画である総合計画では、税収の確保や土地開発、コンパクトシティの推進、人口減少対策等について、総合的に議論しております。また、税収や土地利用の方針などの詳細は、本計画ではなく、それぞれの分野別計画などで記載する内容と認識しています。
2	小池副委員長	前回申し上げた意見に対し、LGBT、ひとり親の記載を盛り込んでもらい、ありがたい。市営住宅に加え、民間賃貸住宅を活用したセーフティネット住宅の充実による選択肢の多様化が、新潟市全体としての暮らしやすさに繋がっていくと考える。住宅確保に支援を必要とする人と住まいを提供してくれる人、それぞれが不安を感じることがないように仕組みに繋いでほしい。	—
3	朝妻委員	SDGsの記載について、定義の説明があるとよいのではないかと。また、マークの色をテーマ別に統一してはどうか。	SDGsの定義については、分かりやすさを考慮して、記載を検討します。色については、世界共通のロゴマークであるため、そのままの使用とします。
4	黒野委員長	計画書の中で、住宅ストック・既存住宅、あるいはリフォーム・改修といった言葉が出てくる。この言葉の使い分けについての説明があると、より分かりやすくなるのではないかと。	住宅ストックは住宅全般を示す言葉として、既存住宅は中古住宅を示す言葉として使用しています(本計画では住生活基本計画の全国計画に合わせて既存住宅と記載しています)。また、リフォームと改修については、基本的には同じ意味合いの言葉として記載しており、主にリフォームを用いていますが、既存事業での使われ方や文脈によって一部で改修と記載しています(耐震改修、断熱改修、改修周期など)。なお、必要に応じて参考資料「用語解説」に解説を記載しています。